

令和5年度 小金井市立小金井第三小学校 自己評価表

人権尊重の精神を基盤として、徳・知・体の調和のとれ、心身共に健康で、主体的に学ぶことができる児童の育成を図るとともに、国際社会に生きる資質・能力を育てる。

○心豊かな子ども ◎自ら考え行動する子ども ○健康な子ども

目指す学校像 (ビジョン)

【目指す学校像】 ○子どもが「今日も登校してよかった」と実感する学校 ○チーム力を生かした主体的に課題を解決していく学校 ○地域・児童が、母校に誇りをもてる学校
 【目指す児童・生徒像】 さ：さわやかにあいさつ く：クラスの友達と仲良く(苦しい時)笑顔で ら：楽な仕事は友達に大変な仕事は自分から(来年、将来の自分をイメージして)
 【目指す教師像】 ○子どもへの愛情に溢れ職務を全うする教師 ○絶えず自己研鑽に励む教師 ○明るく元気な教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】令和2・3年度に、校内研究において体育の授業改善を行ったことで、コロナ禍における児童の体力向上と教員個々の指導力を高めることができた。
 【課題】若手教員が自信をもていない。子育て世代が多く、十分な校内OJTができていない。ICT機器を有効活用した授業づくりについては、学年差が十分に実態に至っていない。

	中期経営目標	真実の教室	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
子どもの権利の尊重	偏見や差別の解消に向けた障害理解教育を推進し、共生社会を担う児童を育成する。	特別支援学級・教室の設置校・拠点校として偏見や差別の解消に向けた理解教育を全学年で実施する。	1年：特別支援学級の理解授業 2・5年：言語聴覚指導専攻理解授業 3・6年：特別支援教室理解授業 4年：特別支援学級理解授業	4 全学年全学級で実施 3 実施率90%以上 2 実施率70%以上 1 実施率70%以下
	自己理解と他者理解を深め、好ましい人間関係を形成する。	不登校対応や、いじめの未然防止・早期対応のために、児童、保護者が相談しやすい体制づくりを進める。	毎月の校内委員会や毎週の生活指導夕会において、対象となる児童の情報を共有していく。相談体制を整え、ふれあい月間を中心に、繰り返し児童に周知していく。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
授業変革の推進	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行い、「生きる力」の育成を図る。	全教員が、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善に取り組み、互いに学び合う。	全教員が個の学びに重点を布けた公開授業を年間1回以上実施する。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
	地域の教育力を活かした体験活動や、情操教育等を展開する。また、学校の情報を積極的に発信し、コミュニティスクールとしての地域連携を推進する。	ICTの活用について全授業の20%以上実施を目指す。ICTを活用することで個別に合わせた学びの時間を設定していく。	ICT機器やデジタルコンテンツ活用 教員研修や情報共有の機会を毎月設定する。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
地域連携の推進	地域の教育力を活かした体験活動や、情操教育等を展開する。また、学校の情報を積極的に発信し、コミュニティスクールとしての地域連携を推進する。	地域・保護者の専門性を生かした授業を実施し、児童の体験を充実させる。	全学年で、地域の外部講師を招いた授業を年間1回以上実施する。	3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
	心身ともに健やかな体を育成する。	スクールメールやホームページを活用したタイムリーな情報発信を充実させる。	定期的な情報発信は月初めに発信する。 週1回以上、可能な限り毎日ブログを更新する。 ICTを活用した授業実践、二小ハブドリプロジェクトについて公開する。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 保護者・地域の評価で、満足度90%以上 2 保護者・地域の評価で、満足度80%以上 1 保護者・地域の評価で、満足度70%未満
特色ある学校づくり	読書活動を推進し、豊かな心を育む。	児童一人一人の運動能力の向上を目指す。	・体育における二小スタンダードを全学級で実践する。 ・学習カードを活用することで、目当ての読書や振り返りを充実させる。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
	志生を生かした取組を充実させる。	読書活動に親しむ機会を設定し、運動量を確保する。	・なわとび、持久走週間を設定し、休みの時間の運動を促す。 ・二小サーキットを積極的に活用し、児童に多様な運動を経験させる。 ・学期1回の読書週間を設定する。 ・定期的な学校図書館を整理する。 ・PTAサークル(さくらんぼの会)による読み聞かせを設定する。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 保護者・地域の評価で、満足度90%以上 2 保護者・地域の評価で、満足度80%以上 1 保護者・地域の評価で、満足度70%未満
	志生を生かした取組を充実させる。	志生の維持管理に、全職員、児童が主体的に関わる機会を設定し、環境教育の推進に生かす。	・芝生維持に係る児童の活動を二小ハブドリプロジェクトに位置付ける。 ・芝生委員会を中心に、地域ボランティアと共に全職員で整備を行う。	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満